

## 【取組の概要】

- 甘利山の自然を次の世代に確実に譲り渡すために、自然保護のあり方を探究し、動植物の保護・保全のボランティア活動を通して人と自然のかかわりを育む
  - ◆甘利山での倒木処理、草刈り
  - ◆亜高山植物をシカの食害から守るためのシカ柵の設置
  - ◆地元小・中・高校生の校外学習等のサポート

## 【体制】 NPO 法人 甘利山倶楽部（2012年11月設立）

- 〈構成団体〉・韮崎ロータリークラブ
- ・韮崎ライオンズクラブ ・韮崎観光協会
  - ・韮崎工業高校山岳部 ・韮崎工業高校ボランティア部
  - ・韮崎高校山岳部
  - ・韮崎高校自然科学部 ・一般市民



## 【取組内容（山梨県内）】

## ■ 植樹



## ■ 春の草刈り



## ■ 外来種調査



## ■ シカ柵設置



## ■ 植生調査



## ■ 地元小学生の校外学習



## ■ 花殻摘み(韮崎工業生と)



## ■ 木柵設置



## ■ 秋の草刈り



## **[1] 取組経緯**

- 1999年11月、甘利山のシンボルともいえるレンゲツツジなどの亜高山植物が、ミヤコザサに覆われ激減していることに心を痛めた有志が、草刈りを始める。
- 2001年6月、甘利山倶楽部発足。草刈り等の自然保護活動に加え、地元小・中・高校生の甘利山観察会のガイドを開始。
- 2002年以降、レンゲツツジの開花調査や亜高山植物の植生調査、シカ柵の設置、クリーン作戦などを定例事業化し、甘利山の自然保護活動を行っている。
- 県森林総合研究所と共同で、レンゲツツジ育成試験（2004年）、ならびにシカによる食害調査（2009年）を行った。
- 2013年3月、特定非営利活動法人甘利山倶楽部を設立し、現在に至る。

## **[2] 工夫した点**

- 学校行事や地域のふれあい行事に清掃や自然保護等の活動を組み入れて行うことで、幅広い年代の参加者に甘利山の美しい自然を保護する意識が醸成された。
- 人手が必要な作業（クリーンキャンペーン等）を行う際には、韮崎市内の2つの高校の生徒の動員を要請し、効率よく作業を行った。
- 植生調査やシカによる食害調査においては、より精度を高めるために森林総合研究所の研究者と共同で行っている。

## **[3] 取組効果**

- ミヤコザサの刈り払いにより、スズランやアヤメ、ヤナギランなどの貴重な植物の増殖が確認された。
- シカ柵の設置により、柵の内側ではレンゲツツジやアザミ、タムラソウ、オミナエシ、ヤナギランなどの開花が確認された。
- 毎年台風の後などには倒木が発生し、登山者の行程に支障が生じるが、倒木の伐採や枯れ木の伐採などを行ったところ、登山者や観光客の安全が確保され、利用者から喜ばれている。
- 発足依頼取り組んでいる自然環境保護活動に対し、平成17年度に(公財)やまなし環境財団より表彰（若宮賞）を受けた。

## **[4] 取組の今後の展開及び課題**

- シカ柵の外側では相変わらず食害が目立ち、希少種であるアツモリソウも食害を受けていた。今後は柵の設置範囲の拡大に努める一方、既設の柵の管理も適切に行っていきたい。
- ササ類やイネ科草本の生育が旺盛であることから、頻繁に草刈りを行い、在来亜高山植物の保護に努めていく。
- 柵の設置や維持管理には材料費が嵩むことから、財源の確保に努める必要がある。

## **[5] 事業費、財源とした補助事業等**

- 地域の森づくり推進事業（県森林環境部）  
H24年度：事業費 234,802 円 補助金 117,000 円  
H25年度：事業費 484,051 円 補助金 241,500 円
- 緑の募金事業（(公財)山梨県緑化推進機構）  
H24年度：事業費 336,900 円 交付金 176,000 円  
H25年度：事業費 337,400 円 交付金 196,000 円